

「第43回日本文化週間」「日本伝統舞踊フェスティバル」 日秘劇場（1,100人収容）

2015年11月13日は「第43回日本文化週間」の枠組みで「日本の踊りフェスティバル」というイベントが日秘劇場（1,100人収容）でありました。主にペルーにある各県人会が踊りを披露。ペルー日系人協会の要望により、日本各地の民俗芸能を披露致しました。



ペルー日系人協会が入る日秘文化センター



日秘劇場ロビー

② 「第43回日本文化週間」「日本伝統舞踊フェスティバル」 日秘劇場（1,100人収容）



満員のお客様の中、菊の会による【日本のおどり】を。

『南部倅つみ唄』（青森県）『鬼剣舞』（岩手県）『銭太鼓』（島根県）
『津軽あいや節』（青森県）『傘踊り』（鳥取県）『ふるさと囃子』の
全6曲を披露し在ペルー日本国大使・株丹夫人よりペルー日系人
協会からの感謝状を頂戴いたしました。



感謝状

「第43回日本文化週間」 「MATSURI」

ラ・ウニオン運動場特設会場（20000人）



日本を出発して約21時間、リマの国際空港に到着された皆様。我が国最高水準の舞台芸術を披露して頂くためとはいえ、重たい、しかし素晴らしく美しい衣装や「刀」や獅子の鬘まで運んで頂いた。飛行中もずっと女性団員は和装で来られた。ペルーでの公演実現は大変なことである。大使館では、日系の方々と協力して日本文化週間と銘打って、日本を紹介し、親しむことができる催しを毎年11月に開催している。奇しくも今年はその第43回。創設43年の「菊の会」と全く同じ期間続いている。

ペルー日系人が自ら建設した日秘劇場、そして、広大な運動施設を会場にして行われる「マツリ」（半日で2万人が集う）のメインイベントとして、舞踊をご披露頂いた。美しく、しかし、力強い。生きていることを心から喜ぶことが伝わる。これほど本格的な日本の舞踊が紹介されたのは初めてのことでないか。

ワークショップの開催と併せ、菊の会の皆様の挨拶と笑顔と気配りの素晴らしさが言葉の壁を越えてペルー側に届いたこともぜひ御報告したい事柄である。ペルー日系コミュニティの切なる願いは、日本文化の指導者がペルーに来てくださることである。今回の公演後、菊の会の舞踏に対する賛辞とともに団員の方から直接指導を受けたいという要望を聞く。実現するのであれば、画期的なことである。ペルーに来て頂いたことに心から感謝を申し上げたい。そしてペルー日系人の皆様とともに、今後の「菊の会」のさらなるご活躍を心からお祈りしたい

駐ペルー特命全権大使

株丹 達也



「ワークショップ」 日秘文化会館内の大ホール（250名収容）

約60名の参加者を対象に日本のおどりのワークショップを行いました。

阿波踊り鑑賞後の体験では座っていた人全員が踊りに参加。

日本の文化が求められていることが肌で感じられる一日となりました。



演目

- ・阿波踊り（徳島県）
- ・郡上節（岐阜県）
- ・藤娘（古典）
- ・基本の稽古
- ・花
- ・舞踊選集
- 早春賦
- 坂本竜馬
- 呼子鳥
- 川の流れの様に

日系人の日本舞踊の指導者が高齢化し、次世代への継承が困難となっている現状を伺い当会がワークショップを実施。

これを機にペルー日系人協会より定期的に指導者派遣を依頼されました。

今後も日本のおどりを次世代に継承していくための指導者の育成に貢献していきたいと考えております。



基本のお稽古（おすべり・歩き方）



阿波踊りのお稽古①



輪踊りのお稽古



日本のおどりのお稽古



日本文化週間『日本伝統舞踊フェスティバル』終演後に皆さんと



ペルー日系人協会の代表と菊の会 10 名



大使公邸で昼食会



ペルー新報さんと
プレッサ・ニッケイさんの
取材がありました。